

評価結果概要表

【評価実施概要】

作成日 平成20年2月28日

事業所番号	2772403263	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	有限会社 杉の里		近畿マネジメント・サポート・センタ
事業所名	グループホーム 杉の里	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
所在地	大阪府枚方市杉4607番地	評価調査日	平成 20 年 2 月 23 日
	電話 072-896-2212	評価確定日	平成 20 年 2 月 29 日

【情報提供票より】(平成19年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数 18人
職員数	16 常勤 7人 非常勤 4人 常勤換算 10.6人

(2) 建物概要

建物の構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての(1階~2階部分)

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他の経費(月額)	35,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 300,000円	退去時修繕費等差引し返還	償却の有無 有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり		45,000	円

(4) 利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	12名	男性	3名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 81才	最低	63才	最高	89才
(5) 協力医療機関名					
津田病院 しらかばホール診療所					

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

事業者は利用者一人ひとりの経歴、性格等を把握し、大切にする視点を持って、介護に望む理念を掲げている。昨年に比べて、利用者の皆さんが落着いて、自ら活動や手伝いに参加し、各自の役割を心得ているように伺える。施設の建物の外周にゆとりがあり、桜並木やプランター等がゆったりとした気持ちにさせている。この事業所の特徴として、街外れのホームらしく、玄関前はゲームが出来るくらいの広さがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外出はホーム周辺へ出掛け、特に、鯉の養殖場では目を楽しませてくれている。施設建物周囲での散歩も可能で、適宜、行われている。また、整容は出張業者が定期的に来ており、各自が自由にしてもらっている。地域の交流は地理的の状況もあるが、徐々に進められている。職員の勤続年数も長くなってきて、組織的な権限委譲も行われつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長はじめ全職員が勤続年数が長くなり、自信を持って日々の介護に当たっており、今回の自己評価も各職員の意見、提案を反省も含めて作成された。食事や、レクリエーション、散歩等、日々の生活に張り合いを持たせるよう配慮している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、平成18年8月12日から平成19年12月18日まで、計4回開催された。出席者は市役所包括センターの職員・氷室地区議会会長・障害者施設長・利用者家族代表・ホーム関係者(会長・社長・管理者等)で実施された。討議内容は、主としてグループホームでの生活状況の説明と認知症介護の説明等である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族アンケートの集計によると、多くのご家族から利用者のホームでの生活振りに満足を得ている。職員もご家族の来訪時には、ご本人の過去の経歴や生活の様子聞き取りに注意を払っていて、介護の手がかりとして重視している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の所在地が地域の住居地から少し離れた国道筋にあって、気軽に立寄る馴染みにくさを感じる。運営推進会議や、地域の方々との交流も徐々に行われているので、連携が少しずつではあるが進められている。事業者は、今後とも日時を掛けて地元との交流を進めることを配慮している。

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は我が家のように寛げる空間と、心が通う質の高い介護を求め、職員を含めた皆が楽しく暮らせるよう「共に生きる」を理念としている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の会合ごとに理念の実践に向けて努力をするように、指示している		
2 地域との支えあい					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	地域の行事を含めて、事業者は交流の積み重ねを行っている	○	水室と杉の地域の方々との交流を盛んにして欲しい、自治会の役員さんとの交流を深めて、各種の行事への参加、広報活動などを通して、少しずつグループホームの存在を意識していただけるよう積み重ねてください
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員を含めた全員の努力で、昨年は利用者の表情はまだ少し硬かったように思ったが、今回は一人ひとりが自由な雰囲気、共用室で過ごしておられるように伺えた		
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	市役所地域包括センターの指導によって、平成18年8月12日に第1回の運営推進会議に漕ぎ着けた。平成19年12月18日まで4回開催し、グループホームの活動内容を資料を配布して理解して頂けるよう進めて来た		
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市役所の担当課に出来るだけ出向いて、情報交換、指導内容の確認等を行っている		
4 理念を実践するための体制					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	ご家族には郵便、電話等で連絡をこまめに実施している。来訪された時には、生活の様子の詳細説明を行っている		
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に、生活様子等について意見を伺うようにしている。提案、苦情等についてはホーム長が、すぐに対応している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9	18	<p>○ 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>ホーム開設当初には、職員の勤続に少し出入りがあったが、最近1年は安定している。変わることがあれば十分な配慮をして対処できる体制にある</p>

	10	19	<p>○ 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>職員の勤続が安定し、職員にも能力向上の意欲があり、各種の研修にも積極的に参加するようになっている</p>
	11	20	<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>地域包括センターの斡旋により、地域のグループホームとの交流会を定期に実施している。相互に訪問や見学も実施している</p>

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12	26	<p>○ 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>職員の家庭訪問、体験入所なども実施して、馴染んで頂けるようにしている</p>
--	----	----	---	--	---

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13	27	<p>○ 本人と共に過ごし、支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>一緒に食事の準備、片付け、または洗濯物を干したり、片付けたりして、自分の家の一員として感じて、暮らしている</p>
--	----	----	--	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14	33	<p>○ 思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		<p>日常生活のなかで、本人の表情や気配から希望や外出などを汲み取って対処している</p>
--	----	----	--	--	---

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15	36	<p>○ チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		<p>職員のカンファレンスによって、一人ひとりの状態の把握を行い、介護計画の改善に繋げている</p>
--	----	----	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	カンファレンスの結果の記録を作成しているが、現在までは見直しのケースはない。モニタリング、評価等を通して、現状と介護計画の差が生まれたときは、見直しを行う		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のご家族からの要望は、現在までは特に無かった		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	内科医師の週1回の往診を受けている、歯科医師の訪問検診は検討課題としている		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りの指針が用意されて、入居時にはご家族とも話し合っている	○	このことは職員の研修や、話し合っ て共通知識としておいて欲しい
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについて職員は、特に配慮しており、記録の際にも言葉に注意している。また、言葉かけには温かみのあることも配慮している		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向に合うように指導しているが、職員のペースで進めようとしていることを見かければ注意している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がメニューから担当して好みも汲んで用意している。準備片付けにも参加してもらっているが、感謝している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴を嫌がる利用者が特に冬には多くなるが、気長に説得して入浴してもらっている。浴後に「入って、良かった」と喜んでおられる</p>		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりの好みも把握出来つつあり、レクリエーションや、外出などを多くするようになっている。また、生活の中で自然と役割が出来て、分担してもらっている。</p>		
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の意向をできるだけ汲んで外出を行っている</p>		

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>敷地の入口フェンスの鍵と玄関の鍵かけは行っていないが、手前のドアは職員の死角でもあり、鍵かけが行われている。</p>		
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時の訓練は消防署と行ったが、地域の方々の協力はまだ出来ていない</p>	○	<p>火災、災害時の地域の方々の応援は、長い目で見て課題として取り組んで欲しい</p>

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人別の食事、水分の摂取量の把握は出来ている。</p>		
--	----	----	---	--------------------------------	--	--

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームの壁を利用した掲示物で季節感や、ホーム便りの掲示を行っている。共用空間は程よい広さで落ち着いた雰囲気となっている</p>		
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた家具、仏壇なども持ち込んで、安楽に過ごしていただいている</p>		